

高温、少雨に対する農業技術対策②

令和 7 年 7 月 8 日
鳥取県農業気象協議会
鳥取県農林水産部農業振興局経営支援課

- 気象庁から梅雨の時期に関する中国地方気象情報が発表され、平年より 3 週間ほど早く「6 月 27 日ごろ梅雨明けしたと見られる」と発表がありました。
- また、同じく気象庁から発表された季節予報(1 か月予報, 7 月 3 日発表)では、7 月 5 日から 8 月 4 日までの向こう 1 か月は、気温が高く、降水量が少ない予報です。
- このことから、今後の気象情報に留意し、「高温」及び「少雨」をいつも以上に意識して、農作物等の農業技術対策の徹底に努めましょう。

【予想される影響及び対策】

区 分	予想される影響	対 策
作 物	【水稻】 ・ 用水の不足 ・ 粍数不足	・ 高温・少雨が継続しており、田面が急激に乾燥するため、ほ場をよく観察して入水時期を判断する。<u>田面に大きなひび割れが入ると、その後の水がためにくくなる。</u> ・ 中干し後の水管理は、いきなり湛水せずに、2～3 日走り水を行った後、間断かんがいにより土を湿润状態に保ち、根の活力維持に努める。 ・ <u>番水、節水栽培により用水の節約に努め</u>、幼穂形成期を迎えるほ場から順次入水していくなどの工夫をする。 ・ 要水量は穂ばらみ期から乳熟期に大きくなるので、この生育時期にあたる水稻への給水を優先する。 ・ <u>出穂後の水管理は間断かんがいを基本とし、掛け流しはしない。</u> ・ 早期落水は品質低下につながるので、完全落水は出穂後 30 日頃を目安とする。
	【大豆】 ・ 出芽不良 ・ 落花や落莢による減収	・ 今後、播種するほ場では、乾燥による出芽不良を防ぐため、やや深めの播種深度で播種機を設定する。 ・ 大豆は開花期から着莢期に土壤水分が不足すると落花、落莢しやすくなり、収穫期の青立ちの原因にもなるため、積極的に<u>畝間かん水</u>することによって着莢率を向上することで増収を図る。
果 樹	【ナシ】 ・ 果実肥大の抑制 ・ 葉やけの発生 ・ 幼木の衰弱、枯死 ・ ハダニ類の発生 ・ <u>果実の日焼け</u>	・ 果実肥大型の水分不足は玉太りに大きく影響するため、<u>積極的なかん水</u>を行う。<u>赤土園では 7 日、黒ボク園では 10 日の連続晴天を目安にかん水する。</u> ・ <u>株元に山草等をマルチ</u>して、土壤乾燥を防ぐ。 ・ 特に根域の浅い幼木、植付け 1 年目のジョイント樹は、乾燥に弱いので、早めのかん水を心がけ、マルチを徹底する。 ・ 雑草との水分競合を避けるため、<u>こまめに除草</u>する。 ・ 晴天、高温条件ではハダニ類が増殖しやすくなるので、発生状況に注意し早めに防除するよう心がける。 ・ 果実に直射日光が当たると日焼けを起こすため、側枝上の新梢は摘心よりも誘引を行う。

区 分	予想される影響	対 策
(果樹)	【カキ】 ・ 果実肥大の抑制 ・ 幼木の衰弱、枯死 ・ 果実の日焼け	・ 果実肥大期の水分不足は玉太りに大きく影響するため、<u>積極的なかん水</u>を行う。 ・ <u>赤土園では7日、黒ボク園では10日の連続晴天を目安にかん水する。</u> ・ <u>株元に山草等をマルチ</u>して、土壌乾燥を防ぐ。 ・ 根域の浅い幼木は乾燥に弱いので、早めのかん水を心がけ、マルチを徹底する。 ・ 雑草との水分競合を避けるため、<u>こまめに除草</u>する。 ・ 果実に直接日光が当たると日焼けを起こすため、仕上げ摘果では葉に隠れる横から下向きの果実を残す。
	【ブドウ】 ・ 果実肥大の抑制 ・ 害虫の発生 ・ 着色不良	・ 急激な水分変化による裂果を防ぐため、<u>こまめにかん水し、土壌水分を安定させる。</u> ・ 晴天、高温条件ではハダニ類やアザミウマ類が増殖しやすくなるので、発生状況に注意し早めに防除するよう心がける。 ・ 黒系ブドウでは高温により色素の合成が阻害されて着色不良となるため、散水により気温上昇を抑える。また、着果量を調整して着色を促す。
野 菜	【ハウス栽培品目】 【トンネル栽培品目】 ・ 作物の萎凋、日焼け ・ 害虫の発生	・ 高温・乾燥時は作物の蒸散が激しいので、朝夕の涼しい時間帯に適正量のかん水を行う。 ・ <u>ハウス側面や出入り口を開放</u>すると共に、妻面換気装置が取り付けられているハウスは開放し、ハウス内を適正な温度に保つよう努める。 ・ ハウス内及び周囲に遮へい物がある場合は、整理して通風を図る。 ・ 作物が萎れる場合は遮光ネットを展張、遮熱資材を塗布するなどして施設内温度の低下を図る。 ・ ハダニ類、アザミウマ類が発生しやすいため、防除を徹底する。
	【露地野菜】 ・ 生育の停滞 ・ 定植後の活着不良 ・ 病虫害の発生	・ かん水可能なほ場では<u>積極的にかん水</u>を行い、草勢維持に努める。特に定植後は、株元にかん水し、活着・初期生育を促す。 ・ かん水施設がないほ場ではタンクに水を汲んで動噴等を用いる。 ・ かん水はなるべく朝または夕方の涼しい時間帯に行い、水田転換畑では排水対策を実施した上で滞水しないよう注意する。 ・ <u>敷きわら、マルチ等</u>により土壌水分の蒸散防止に努める。 ・ チョウ目害虫、アザミウマ類、ハモグリバエが発生しやすいので、防除を徹底する。
花 き	【全般】 (注)施設、露地とも ・ 生育停滞, 生理障害 ・ 定植後の活着不良 ・ 害虫の多発	・ かん水は朝夕の涼しい時間帯に適正量を行う。定植直後は活着するまで乾燥させないよう特に注意し、かん水量は1回10mm程度を目安とし、必要に応じてかん水回数を増やす。 ・ 乾燥によりハダニ類、アザミウマ類が発生しやすいので、防除を徹底する。
	【施設花き】 ・ 生育停滞	・ <u>ハウスの出入口、ハウス側面等を出来る限り開放</u>し、風通しを良くする。妻面換気、換気扇、循環扇等を有効利用する。 ・ 寒冷紗を効果的に利用し、施設内温度の低下を図る。 ・ 高温乾燥による養水分の吸収阻害から、要素欠乏を生じる可能性があるため、必要に応じて葉面散布を行う。

区 分	予想される影響	対 策
(花き)	【露地花き】 ・生育停滞 ・萎れによる曲り	・かん水チューブやスプリンクラー等による 散水 を実施し、 葉面温度低下 に努める。 ・かん水装置のないほ場では、高温乾燥が続く場合は畦間かん水を実施する。ただし、かん水後滞水しないように注意する。
家 畜	【全般】 ・食欲減退 ・乳量、乳質の低下 ・繁殖性の低下 ・疾病感染リスクの増加	・ 対応できる暑熱対策 に万全を期す。 畜舎内の気温・湿度管理、換気管理に細心の注意を図る。 （ 送風 、 換気 、床管理、細霧冷房、屋根散水等） ・ 新鮮な飲用水の確保 を図る。 ・ 飼料 の給与時間を工夫するなど、 摂取量確保 に努める。 ミネラル、ビタミン剤補給 なども併せて行う。 ・呼吸の荒い家畜などには直接、冷水をかけるなど緊急対応を行い、診療は早めに行う。

（注１）下線部は、6月26日付の農業技術対策からの追加等の内容。

（注２）**強調＋２重下線**は、その他、特にポイントとなる対策。

●気象庁等のホームページで気象情報の確認

- ・随時、気象情報に留意し、農業者等への指導をお願いします。

〔気象庁〕

防災情報 ＞ 天気予報など ＞ 天気予報(向こう1週間)、2週間気温予報(毎日更新)、
季節予報(1か月予報)(毎週木曜日発表) など

●注意喚起「熱中症対策」

- ・例年以上に高温が続く予報です。
- ・高温下では、長時間作業を避け、こまめな休憩を行うこと。
- ・休憩時は、水分や塩分の補給、体温の冷却を行うこと。